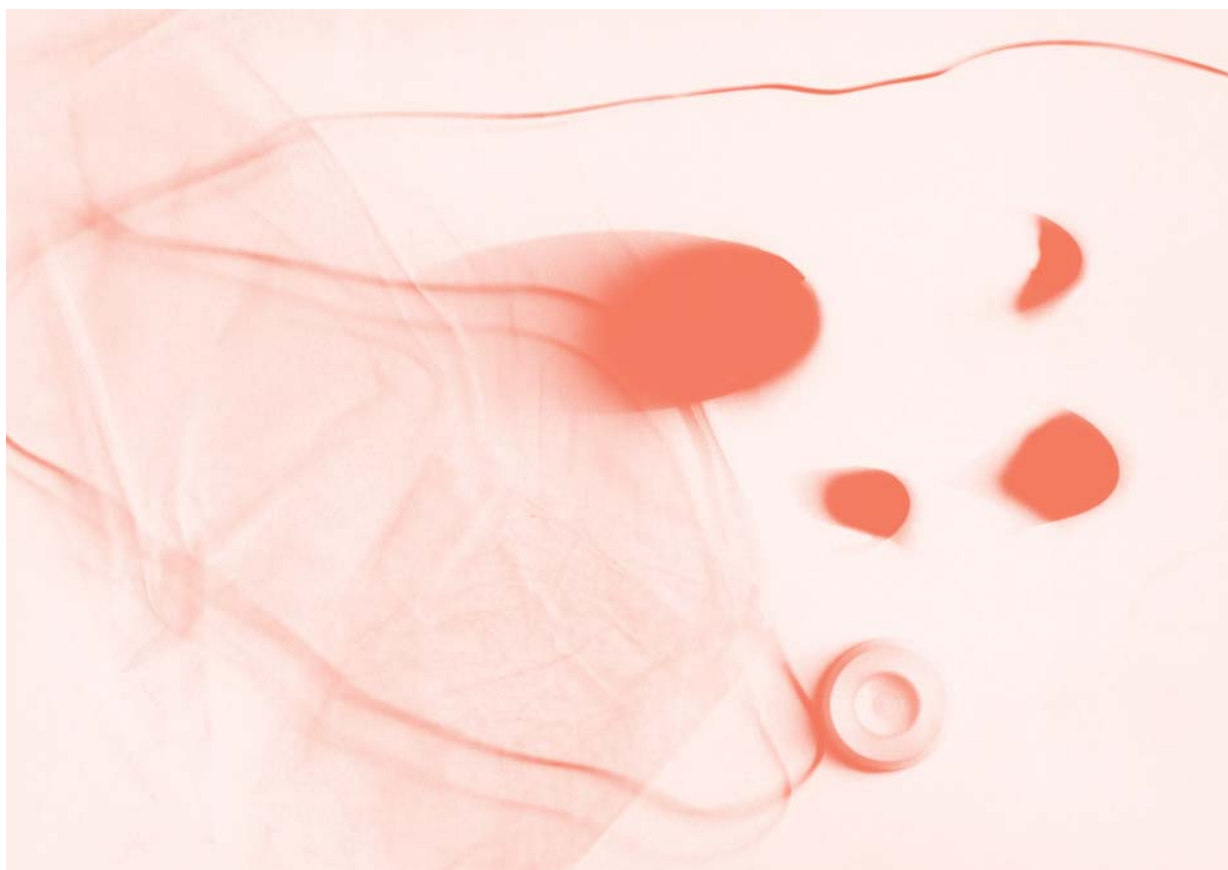


Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

256



Contents

- なんでもある…杉浦直基 ● 1
- Parlando Interview 一生なくさないでほしいもの…花岡千春先生 きき手・市川利次 ● 2
- 資料の館 ㉔ 鍵盤楽譜“〇〇版”1 ～インヴェンションの楽譜たち～…高田涼子 ● 6
- 音の渦巻き？暴走族？小説の中で演奏される吹奏楽…二塚恵里 ● 8
- 『音楽療法の現在』 国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編…屋部操 ● 10
- ピープル・ぴーぶる ㉔ 荻野綾子と東京高等音楽学院…染谷周子 ● 11
- モーツァルト新全集が電子版で公開 NMA Online : Neue Mozart-Ausgabe: Digitized Version… ● 12
- 今年は第4位：2008年度版「大学図書館ランキング」（朝日新聞社）… ● 12
- 館長室の窓から ㉔ 愛らしい人…佐藤真一 ● 13
- Parlando ばるらんのあゆみ その⑥ 楽譜ランド… ● 13
- CD/BOOK…小川明奈・高橋幸恵 ● 14
- コンクール資料の探し方 OPAC ワンポイント・アドヴァイス… ● 15
- Information… ● 16

なんでもある

杉浦 直基

25年前のある日、3号館のレッスン室は怒号に包まれていました。「なんだその演奏は。そんなチャイコフスキーがあるか」その日はオーケストラの入団オーディションで演奏するオーケストラ・スタディのレッスンを受けていました。日本一有名な交響楽団の首席奏者として活躍なさっていた師匠は、特にオケ・スタには一切の妥協を許さず、ほとんど経験の無い私のヘタクソな演奏を聴いて徐々に怒りが込み上げて来ているようでした。「オーケストラで演奏するためには、指揮者以上に曲を理解してなきやダメなんだ」そしてそれは私がチャイコフスキーのピアノ協奏曲第一楽章にあるソロを吹いた瞬間でした。「おいおい、キミはいつたいどんな勉強をしているんだ」「やった事が無いなら無いなりに考えたらどうだ」「出直して来い。ほら、さつさと出ていけ」

10分ほどでレッスン室を追い出された私は廊下で立ち尽くしていました。「全然ダメだ、もつと勉強しないと。何とかして経験の無さを補わなきゃ。うーん、それならいろんな人の演奏を参考にしながら勉強してみるか。と言うことは：よーし」

入学以来、図書館には割りとよく出入りしていましたが、この日を境に利用の仕方が一変しました。朝一番にオーケストラスコアを数冊借りたらそのまま下に降りてレコードを4時間ほど聴き、5食で手早く昼食を済ませたら再び図書館へ。さらに4時間ほど聴いたら練習室でさらにまくるといいう日々の繰り返しです。しかし勉強しなければいけないオケ・スタは50曲以上。5種類ずつのレコードを聴いたと

して二百五十曲分です。結局、目前に迫ったオーディションまでには一通り聴き終える事が出来ずに見事不合格に。しかし通い続けたおかげで図書館の魅力の虜になってしまいました。よく考えたらこんな楽しい場所はありません。とにかく何でもあるので。舌を噛みそうな名前の作曲家、聞いたことも無いような怪しい題名の曲、何種類ものバージョンの違うスコアとそのレコードの数々。元々クラシック音楽マニアの私はすっかりハマってしまい、アパートにいる時間より長くなってしまいました。おかげで勉強もはかどり、遂には2度目の挑戦でなんとか某交響楽団に無事合格、図書館育ちのプロの音楽家の誕生となつたのです。

卒業後も離れられずに仕事の合間を見ては通い続ける日々が続いていたある日、そんな私がまだ気付いていない図書館の真の魅力を思い知らされる出来事が起きました。楽譜貸し出し受付前で大学院に進んだ同級生と久しぶりに再会したのです。その後、も何故か図書館で頻繁に顔を合わせるようになり、すっかり意気投合。音楽談義に花が咲き、そして：。

時は流れて25年後のある日。レッスン室では悩める学生となった私がつておきのアドバイスをしています。「曲のイメージが掴めないって？それなら図書館に行きなさい。CDを何枚も聴くんだよ。それに出版社の違う楽譜も借りてチェックしなさいよ。そうすればそのうち良い事もあるかもよ。え？何のことですか？はーん、まだ知らないな。国立音大の図書館には何だつてあるんだよ。僕はステキな奥さんまで見つけちゃったんだからね」

一生なくさないでほしいもの

花岡 千春 先生



花岡 千春 (はなおか ちはる)

東京藝術大学卒業、同大学院器楽科ピアノ専攻修了。故・安川加壽子女史に師事。その後、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、審査員全員一致の第一等首席を取得卒業。ヨーロッパ各地で演奏。イタリアのパルマに居を移し、古典および近・現代フランス、イタリア音楽の研究を積んだ。フィナレ・リグレ、マリオ・ザンフィ・リストなどの国際ピアノコンクールに上位入賞。帰国後はソロリサイタルをはじめ、室内楽や伴奏、放送等で活躍。1999年開催の独奏会で第54回文化庁芸術祭音楽部門大賞を受賞。現在、国立音楽大学教授。

余りに美しい声が事務室に響くので伸び上がってみると、花岡先生でした。その美声に酔いながらのインタビュー。中身が濃いのは勿論のことです。

ヴァイオリンは苦手？

—音楽を始められたきっかけは？

花岡 妹がピアノを始めたら、息子はヴァイオリン、と父が決めていたみたいなのです。僕は最初からピアノをやりたいかったのですが、ピアノは女性の楽器と父は思っていたようです。幼稚園から才能教育の鈴木鎮一先生その人からヴァイオリンを教わっていたのですが、実は、イヤでイヤで（笑）。専ら伴奏ピアノに熱い視線を送っていたそうです。結局自然に弾けるようになって、母が父に内緒で始めさせてくれました。

—ピアノはずっと順調に？

花岡 父はどちらかというと、やめさせたかったようです。父は文学系に進みたかったのに諦めて家を継ぎ商売をしていましたから、

僕には文学部とかに行ってほしかったのだと思います。家にはバルザックとか山崎豊子とか、全然子供向きでない本がたくさんあって、それを内緒で読んでいました。そういえば、商売をやっている我が家では、人が働いている時、知らん顔しているのはよくないと何かにつけ手伝わされました。ピアノを弾いていても勿論呼ばれました。今でも学生や裏方さんがステージで椅子を並べたりしていると、黙って見ていることができないのは、父の躰でしょうね、これだけは感謝しています。

その時、何が吹っ切れた

—印象的だった先生は？

花岡 自分にとって最大の先生は安川加壽子先生です。フランス仕込みの合理主義的な大人であり、非常に真面目でいらした。大変尊敬し、憧れてもいました。

実は、大学2年の時に父が亡くなり、母の手伝いをしたりで、一

ヶ月ほどピアノの勉強が全くできなかつたんです。その時、事情をご存知なのにレッスンでものすごく怒られました。何故こんなに

と思つたのですけど、「励まし、期待して下さっているんだ」と気づき、涙が出るくらい嬉しかったです。その時、何かが吹つ切れたと思いました。

—レッスンの曲は、全然疑問もなくという感じでしょうか？

花岡 多少はありましたけど…：フランス物はほとんど下さいませんでした。ベートーヴェンのソナタ、あとブラームス、シューマン…：大学院に入ってから、ようやくフランス物を少し。「先生、どうしてしようか」と訊くと、「あなた、好きでしょ」と（笑）。

—伴奏とかは、いかがでした？

花岡 畑中良輔先生のレッスンに伺つたのが始まりです。当時は、綺羅星のように素晴らしい先生が芸大にいらして。

—歌手にも伴奏者にも厳しい先生がいらしたとか。

花岡 もう、楽譜は飛ばし、歌い手がよけても怒るのです。「どうしてよけたの」って。僕は飛ばされたことないですけどね（笑）。

—見込まれたのでしょうか？

花岡 いや、ピアノが傷つく、と

思われたのではないですか。

フランスの誇り高き八百屋さん

—留学のきっかけは？

花岡 大学を出て、困つたノヤることがない。何も考えていなかつたノ「じゃ、もうちよつと勉強を続けてみよう」と先生にお話したら、「なら、行つてみる？」ということでフランスへ行つたわけですから、

—やはり弾きたい曲があつたからでしょうか？

花岡 勿論音楽が好きだつたというところもありますけど、フランス芸術に対する傾倒が大きかつたです。

—安川先生のレッスンとつながるものも？

花岡 先生はほとんど何もおつしやらないんです。うまくいつたら「うん」だし、よくないと、「うーん」で、それだけのです。

—あまりテクニックはおつしやらないといふことでしょうか？

花岡 時々おつしやいますが、細かいことはおつしやらないです。

—フランスの先生方も？

花岡 おつしやらないですね。作品についても、メソッドについても自分なりに考えていかなきゃいけないということですよ。

—言葉の苦勞は？

花岡 あまりなかつたですね。言

葉がしゃべれなくても何とかなるし、勉強していれば段々覚えていきますものね。アパートのそばにちっちゃな八百屋さんがあつて、

そこは、指さしただけでは、売つてくれないのです。「ちゃんと言いなさい」と。通じると取つてくれて、通じないと取つてくれない。簡単な発音でも、中々通じなかつた。4週間くらいたつた時、「お前の発音が全部わかるよ」と拍手してくれて、握手してもらつた。それはすごく幸せでした。

—海外のコンクール事情を伺いたいのですが。

花岡 はじめ、毎回違うプログラムを用意していたのですから、お間抜けですよ。あるプログラムを作つておけば、どこでも受けられると段々わかつてきました。どこへ行つても必ず会う人たちがいて、同じものを弾いている。こうやって鍛えていくということが、わかつてきたのです。

—コンクールの功罪は？

花岡 多くなり過ぎたとは思いますが…：コンクールは落ちてもいいんです。落ちてなにくそと思えばいいわけ。大体コンクールの審査が絶対なんという事はないのです。審査に曇りが出ることはあるし。

昔は世に出るためにコンクール

通過が必要だつたのですが、この頃はむしろコンクールを受けなくても、特殊なレパトリーとか、活動をしているということで、認められる場合もありますよ。

演奏家眞利(苦しみ、楽しみ)

—先生の演奏会やCDは、楽しいと評判なのですが、意識されてのことでしょうか？

花岡 全然していません。けれども、みんなは楽しそうに弾いていると…：僕は苦しいんですけどね（笑）。ああ、こうなつちやつた、ああなつちやつたと、後悔と反省ばつかり。

—先生のCDの中では、うたと共演の『東京行進曲』（請求番号●X0388206）が大好きなんですけど、これらの歌のバンド伴奏を全部ご存じなわけではないと思うのですが。

花岡 いや、知つてます。勿論！それから楽譜を起こしているのですから。昔から、オペラのアリアの伴奏でも、自分なりのヴァージョンを作るようにしていました。

—音を正確に表すための色々な準備も、楽しい、みたいな。

花岡 勿論そうです。そうでないと気持ち悪い。

ただ楽譜通り音を並べるよりも、何故その音があるか？この音



当館所蔵CDより。左から『花林/雨の道 橋本國彦、信時潔、畑中良輔ピアノ作品集(請求記号●XD59111)』『子供のために 花岡千春タンスマンを弾く(請求記号●XD57849)』『木の葉集 信時潔ピアノ曲全集(請求記号●XD56710)』『東京行進曲 日本の歌謡(本文参照)』

はどういう楽器が演奏していたか？を知ることが、最低限の務めだと思えます。あるいは、この時代の作品には和声的に妙な響きのところがあつたりもします。それを今の僕らの常識で安易に変えてしまうのも考え物だと思つています。柔軟に変えられるピアノ以外の伴奏ものは、やはり作品の原型の追求が欠かせないと思えます。

という市民権を得られるところまで知らしめ認めて貰うということ、それは恐ろしく難しいことです。しかし、このCDの準備は少なくとも楽しい作業だったんですよ。

—クラシックではいかがでしょう？
規範には従っておこうか。

花岡 ああ、僕はそういうタイプですね。反逆するほうではないです。やはり規範とか伝統には寄り添うタイプだと思います。それがクラシックだと思いますし、継承していかなきやいけないものは幾らでもあります。

最終的にどこに行き着けるか

—暗譜のコツとありますか？

花岡 ありません。教えてください(笑)。とにかく頭を使い、和音の変化、調性、展開等、構造的に覚えるようにしています。昔は指だけであつたという間に覚えられましたが、今はそれでは怖い。頭をフルに使つて暗譜しています。

—あがりですか？

花岡 あがるんでしようけど、昔は意識しなくなりました。

ステージに出る前は嫌ですよ。以前は、出てからも嫌でしたが、この頃は出ていったら、もうしょうがないなとすーっと落ち着いて、やはり経験でしょうね。本番でう

まくいかないものは普段だつてうまくいつていないんですよね。

あと、暗譜だけに困っていえば、とにかく十代でやったものは、よく覚えてます。三十過ぎてからは、さつきやつたのにもう忘れてる(笑)。やはり十代二十代で色々な曲を知っておくのは、大事なことで。

—CDの功罪については、どうお考えでしょうか？

花岡 難しいですね。CDも利用の仕方だと思います。CDを聴くと模倣になるという人もいるけれど、模倣をすることだつて大変なことです。どの程度の模倣ができるかとか。CDを聴くことは、むしろ推奨します。

ただ、「二種類の演奏に拘泥するのはよくない。それは非常に危険！三つ四つものを聴くこと。あるいは聴く時期を考へること。例えばある程度練習した後に！」とは言つています。やはり利用の仕方というのは考えなきやいけない。最終的にどこに行き着けるかが問題です。それぞれの方法論を見つけていけばいいのではないのでしょうか。

僕の役目

—日本人作品に取り組まれたきっかけについてお伺いしたいのですが。

花岡 そもそもそのきっかけは、指を痛めたことです。それまでのレパートリーを使うことができなくなり…。さあ、どうしよう。何かできるものはないかと思つて…。恥ずかしながら、それがきっかけです。高邁な思想なんて無かつた。

実は、学生時代から橋本國彦や、信時潔の歌曲は盛んにやつていました。それと考へてみると、子供の時から邦人作品の新しい楽譜が出ると、それを買つて弾くことも妙に好きだつたんです。どんな音がするんだらうつて。弾いてみると、不思議な音がして…。長じてからは、自分がクラシック音楽、要するに自国のものではないものばかりをやつている。そういうところから、「じゃ、日本人が書いた音はどんなものだらう？」というところに、体の不意の時にもう一度立ち戻つたのかもしれない。それと歴史の裏側にある、何で取りあげられないんだらうというような作品を演奏したいという気持ちはいつもあります。

そりやシヨパンやシューマンばかり弾いていたら勉強になりまじ面白いですけど、この世で僕の役目は別のところにある、みたいに思ふんです。実は、僕は目立つ学生より、素質がありながら中々認められない学生のほうが氣

になって仕方ない。だから、そういう性分なんです。不器用でも、勤勉で真摯な学生が気になるのは言うまでもありません。同じ様に、質が高いのに認められていない作品に対して、できることなら、外に出したいという気持で一杯です。

—今後の計画は？

花岡 年末に邦人のピアノ作品集を1枚録ることになっています。その後3月にフランス近代の1枚。もう、3枚先のCDまで予定が決まってるんですけど、一体僕はいつまで生きていられるかわからないし(笑)。

「歌曲作品研究」のひごがし

花岡 たまたま「歌曲作品研究」という授業をやらせて頂いて、日本歌曲を年代順にやっているのですけど、例えば日本人は「雪」を見た時に、ただ白いだけではないものを感じますよね。蒼ざめた感じとか、暗闇に光る感じとか、そういうものが僕らの感覚の中には、もう根源的にあるんですね。

ある言葉と向き合った時に、自分がそれに対して何を感じ、どう表現するか。その言葉との対峙の仕方は、実は同様に全ての音楽で応用されなければならない。ドイツやフランスの芸術歌曲に対峙す

る志も、勿論そんな覚悟の上になければならないと伝えたいのです。

—ピアノの学生にとっても？

花岡 外国曲の場合、辞書を引いて一生懸命意味を探って、しかし残念ながら大半はそこでおしまい。それでは不十分だということ、日本の歌曲をやりながら勉強してほしい。先程の「雪」という言葉の例のようなことを、母国語で体験すると、一つの言葉にこんなイメージがあることがわかる。その恐ろしさ、奥深さを知ってほしい。

ピアノのアンサンブルコースの学生もこの授業にいます。彼女たちが日本の歌曲の伴奏をやる時、言葉の扱いや曲全体の雰囲気の出に敏感になっていく。時にはピアノリストのほうが歌い手より優れたイメージを持つて演奏する場合もあるのです。結局、歌手とピアノリスト、二人の共同作業、両方の共同責任で芸術ができていくわけです。学生たちが喜んでやってくれるので幸せだと思っています。

今、出す音に責任を

—改めて学生にアドヴァイスを

花岡 芸術家としての成熟とは何か、もう一度考えてほしいです。

国立音楽大学には、この世の中の良心の部分を持つていく人たちが、そういう善良な人たちが集まっていると実感しています。しかし、そういう人たちだからこそ世俗的な大成功は望めない場合もあるかと思えます。でも、音楽には色々な成功の道があるのです。自分を見極め、一体どういう形が自分にとっての成功かを考えることが必要だと思えます。今皆さんが持っている良心とか、優しさとか、思いやりとか、そういうものは一生なくさないでほしいですね。

名だたる国際コンクールでも、

花岡先生おすすめの本

『ベンヤミン・コレクション1〜4』(ちくま学芸文庫)

これは精読と言うより、時間がちよつとあるときにぱらっと開いて読みます。ぱらっと聞くから、以前ぶつかったところに遭遇するときもありますが、それはそれ。面白いのです。2と4が特にお勧めかな。

『田中一村作品集』日本放送出版協会

一村は若冲にも近く、ルソーにも近く、とても面白い画家。絵は凄く好きですが、それも職人的な絵が好きです。日本画はこのごろ本当に好きになりました。あとはブリュッセル、フェルメール、カラヴァッジョなんかの画集をしつこく眺めるのも好きです。

『オリヴィエ少年の物語(ラバ通りの人々、3つのミニット・キャンディー、ソングのひと夏)』ロベール・サバティエ著 福音館書店

唯一の小説。これは子供用の本なんですけど、なかなか面白い。邦訳はまだ完結していませんが、フランスのよき時代の話。ティボー家の物語とはまた別の味わいの、しかし細やかな心情描写のすぐれた作品だと思います。

■いずれも当館では未所蔵の資料です。TAC加盟館、公共図書館で利用して下さい。
■ティボー家の物語「デュリガール」著。日本では「チボー家の人々」というタイトルで訳出(編註)

今や、物理的な音の大きさや速さあるいはミスの有無だけを判定の基準にはしていません。それだけを第一義とする勉強よりも、その後ろにあるもの、芸術性というか思想というか、借り物でない歌心や色なりにこだわってほしいと思います。そして、とにかく自分の出す音について、何故この音は今こういふふうに出すのか?説明できるくらいでないといけない。そういうことについて、責任を持つてる様な勉強をしていってほしいと思います。

*その他の校訂者による**教育的な版** (Instructive edition) といわれるもの

監修・校訂・解説など	出版者・出版年	請求記号	注釈
ベルナルドス・ ボーケルマン編著	公論社, c1978	G18-098	赤, 緑, 紫, 黄で主題と第1, 2, 3対 旋律を示し, 記号等を用いてその 他の分析を表示した版
ジョン・トンプソン	Willis Music Co, c1961	G15-283	タイトル: Bach in color. (self-explanatory edition)
千蔵八郎監修	エー・ティー・エヌ, 1994	G29-108	指導書。同出版者からの「イン ヴェンションとシンフォニア: 解 釈と奏法」にもとづいたもの。
井口基成, 土川正浩, 福井直俊共編	春秋社 [1943]	G30-494	
高木幸三校訂・解説	全音楽譜出版社, 2002	G29-259	
神澤哲郎編 (学習版)	音楽之友社, 1989	G22-405	
園田高弘校訂	春秋社, 2004	G30-267(二声) G30-180(三声)	

【探し方】 件名 *instructive edition* (フレーズ検索) を追加入力して検索

* 教育的な版とは、演奏解釈や学習者にとって実践的な指示の記された楽譜。テーマやフレーズが色分けされている楽譜もあれば、奏法上の注意、装飾音、指使いの選択など、指導書のようなものもある。

(2) 出版者から原典版 (Urtext) として発行された楽譜 (ファクシミリ版は別表参照)

出版者	シリーズ名	請求記号 (出版年)
ヘンレ (Henle) (G.Henleを含む)		G1-788 ([c1955]), G21-390(二声); G13-435(三声); G29-938 (c1979)
ペータース (Peters) (Edition Peters, C.F.Petersを含む)		G1-792 (c1961), G1-759 ([1933?]), G1-760 ([1966?])
音楽之友社	ウィーン原典版 (Wiener Urtext Edition)	G16-134 ([1974], c1973), G17-522 (c1973) Wiener Urtext Edition(ショットとユニヴァーサル の共同出版)による
バーレンライター (Bärenreiter)		G28-937 (2002, c1970), G30-846 (c2005)
全音楽譜出版社	バーレンライター原典版 (Bärenreiter Urtext)	G17-627 ([1979], c1972) バーレンライター社の全集(新全集)からの再録 写本P219とハインリヒ・ニーコラウス・ ゲルバーの写本による 装飾稿あり

【探し方】 (出版者: ヘンレ版の場合) 出版者 *henle* (フレーズ検索) を追加入力して検索

【探し方】 (シリーズ名: ウィーン原典版の場合) タイトル *wiener urtext edition* を追加入力して検索

*ファクシミリ版: 自筆譜 (手稿譜)

出版者・出版年	請求記号	注記
C.F. ペータース, [1956]	G17-682f, G18-666f	ゲオルク・シューネマンの解説 (ドイツ語) あり。
C.F. ペータース, [19--]	G17-707f	ゲオルク・シューネマンの解説 (ドイツ語) と ラルフ・カークパトリックの英訳あり。
ドーヴァー, 1968	G17-697f	自筆譜ファクシミリとバッハ協会による旧全集3巻の楽譜。 序文: エリック・サイモン

【探し方】 件名 *facsimiles* (フレーズ検索) を追加入力して検索

*全集楽譜

旧バッハ全集 (第3巻) 請求記号 ●A0-004

新バッハ全集 (シリーズ5, 第3巻) 請求記号 ●A0-139, A0-190

※全集はOPACでは探せないのので、全集目録をご覧ください。

参考文献

- ・高橋淳『楽譜の正しい選び方』春秋社, 1989 請求記号 ●J100-852
- ・樋口隆一『原典版のはなし: 作曲家と演奏家のはざまに』全音楽譜出版社, 1986 請求記号 ●J101-603
- ・高橋淳『楽譜の話』草思社, 1985 請求記号 ●C40-975
- ・『原典版の手引』音楽之友社, 1974 請求記号 ●C62-146
- ・ウォルター・エマリ; 東川清一訳『エディションと音楽家』アカデミア・ミュージック, 1999 請求記号 ●C63-602

鍵盤楽譜 “〇〇版” 1 ～インヴェンションの楽譜たち～

高田 涼子

「〇〇版って先生に言われて…」と図書館で楽譜を探したことはありませんか？

私達が普段使っている「〇〇版」という言葉は、実は色々な出版の特性があります。大きく2つに分けると、**編者・校訂者の名前**と**出版者の名前**です。また、**原典版**とは何でしょうか？

楽譜選びに役立つ探し方のコツと共に、ピアノを学ぶ人にはおなじみのバッハ、ベートーヴェン、ショパンの鍵盤楽譜を中心に紹介したいと思います。今回は、第1弾としてバッハの《インヴェンション》のいろいろな楽譜を取り上げました。これを機に、1つの曲をじっくりと見直してみたいかがでしょうか？

*あくまでもオススメではなく紹介にすぎません。楽譜を選ぶ時は先生に相談したり、自分で調べたりしましょう。

【まずは、用語の整理から！】

- ★校訂者：出版のために楽譜を整えた人のことで、パデレフスキ、ブゾーニ、コルトーのような名演奏家もいれば、音楽学者のこともあります。
- ★出版者：Henle（ヘンレ）社、Peters（ペータース）社、Bärenreiter（ベーレンライター）社、Ricordi（リコルディ）社など楽譜を出版した会社。出版するのは会社だけでなく個人や団体の場合もあるため、図書館では通常「出版社」ではなく「出版者」という用語が用いられます。
- ★原典版（Urtext）：作曲者による記譜を学術的に吟味し、厳密に再現した印刷楽譜。

※本文中の△はスペースです。フレーズ検索、キーワード検索は、館内OPACではファンクションキー（F5：フレーズ、F7：キーワード）を指定して探します。WebOPACでは、（標準：前方一致）、（フレーズ：前方一致）、（キーワード：後方一致）をプルダウンで選んで探します。

●Johann Sebastian Bach の「インヴェンション」 二声（BWV 772-786）、三声（BWV 787-801）

【この曲の探し方】 作曲者+タイトル *bach+inventions*

(1) 主要な校訂者による楽譜

校訂者	出版者・出版年	請求記号	注釈
ブゾーニ、フェルッチョ (Busoni, Ferruccio 1866-1924) (いわゆる“ブゾーニ”版)	G. シャーマー, c1926	G1-778 (三声)	英語
	G. シャーマー, c1927	G1-776 G1-757 (二声)	英語
	ブライトコップ・ウント・ヘルテル, [198-?]	G13-444 (二声) G1-793 (三声)	ドイツ語、英語、フランス語
	ムジカ, 1991 ヤマハミュージックメディア, c2000	G23-189 G29-081	ロシア語 ドイツ語、英語、日本語
ビショップ、ハンス (Bischoff, Hans 1852-1889)	スタイングレーバー, [19--]	G17-660 (二声) G17-661 (三声)	ドイツ語
ツェルニー、カール (Czerny, Carl 1971-1857)	C.F.ペータース, [19--]	G1-762	ドイツ語、フランス語、英語
フィッシャー、エドウィン (Fischer, Edwin 1886-1960)	ハンセン, [1954]	G1-765 (二声)	ドイツ語、フランス語、英語
	ハンセン, c1955	G1-764 (三声)	ドイツ語、フランス語、英語
クロイツ、アルフレッド (Kreutz, Alfred)	ショット, [19--]	G1-769 (三声)	ドイツ語、フランス語、英語
ムジェリーニ、ブルーノ (Mugellini, Bruno 1871-1912)	リコルディ, [1968 printing]	G1-784 (三声)	イタリア語、フランス語、 スペイン語
	リコルディ, 1951	G1-785 (三声)	注釈なし
デームス、イェルク (Demus, Jorg 1928-)	アルソ出版	発注中	

【探し方】（ブゾーニ版の場合）人名・団体名 *busoni* を追加入力して検索

◇フェルッチョ・ブゾーニ (Ferruccio Busoni 1866-1924)

イタリア出身でドイツを中心に世界中で活躍した作曲家・ピアニスト・指揮者・音楽教師。バッハの鍵盤楽曲選集を校訂。速度記号やアーティキュレーション、フレーズ記号、デュナーミク、メトロノーム記号をバッハの原曲に付け加え、詳細な演奏の指示を注釈した。



XD37463(1996 東京佼成ウインドオーケストラ)、XD39146(1997 埼玉県 埼玉栄高等学校吹奏楽部)、XD39149(1997 福井県 ソノーレ・ウインドアンサンブル)、XD39151(1997 東京都 東京ガス吹奏楽団)、XD41896(1997 東京都 東京ガス吹奏楽団)

♪バレエ音楽「シバの女王ベルキス」より/レスピーギ

“こらァ。トランペット。お前ら、暴走族か。”

[吹奏楽版]XD11919(1990 千葉県 柏市立柏高等学校吹奏楽部)、XD14875(1991 千葉県 千葉市立土気中学校吹奏楽部)、XD14879(1991 北海道 北海道札幌市立白石高等学校吹奏楽部)、XD14882(1991 岡山県 倉敷市民吹奏楽団グリーンハーモニー)、XD32745(1993 東京佼成ウインドオーケストラ)、XD38535(1993 愛知県 幸田町立北部中学校吹奏楽部)、XD38538(1993 山口県 山口県立下松高等学校吹奏楽部;岡山県 金山学園高等学校吹奏楽部)、XD38539(1993 北海道 東海大学第四高等学校吹奏楽部)、XD38541(1993 福岡県 福岡大学応援指導部吹奏楽団)、XD39144(1997 茨城県 常総学院高等学校吹奏楽部)、XD40003(1993 北海道 札幌市民交響吹奏楽団;大阪府 創価学会関西吹奏楽団)、XD50488(1998 大阪市音楽団)、XD57822(1993 創価学会関西吹奏楽団)

[管弦楽版]XD2182 ; XD15950 ; XD32296(1985 フィルハーモニア管弦楽団)、XD47933(2001 ミネソタ管弦楽団)

この小説には、『うさぎとトランペット』(新潮社, 2004)という続編も書かれています。ラストシーンから約2年後の物語で、前作と『うさぎ』でつながった小学生の女の子が、中学卒業後の吹奏楽部員たちと出会って音楽に引き込まれていきます。

演奏場面はあまり多くありませんが、3年目のコンクールの結果や、前作では掘り下げられなかった人物の一面など、部員たちのその後が気になる方はどうぞ。

その他、吹奏楽を題材にした小説と、その中で主な演奏曲をご紹介します。

◆津原泰水『ブラバン』(バジリコ, 2006)

高校の吹奏楽部を四半世紀の後に再結成しようとする物語です。数多くの個性的な部員たちに焦点をあてて、活気に溢れた1980年頃の思い出と、苦さを含んだ現在とが交互に語られます。

♪ペンシルバニア6・5000/グレン・ミラー楽団

“グレン・ミラー楽団のノリノリな演奏をなまじ知っているものだから、たぶんバンドの全員が演奏しながらあまりの違いに愕然としていた。「ペンシルヴェイニア、シクス、ファイヴ、サウザン」という掛け声は寝言にエコーをかけたようだった。”

♪秋空に/上岡洋一

“威勢のいい二拍子の伴奏と明朗なメロディ、コンパクトで起伏に満ちた構成は、僕らのすてばちな気分にも妙に似合った。”

♪ムーンライト・セレナーデ/グレン・ミラー楽団

“同曲をクラリネット隊が吹きはじめたのを聞きつけるや、急いで駆け寄り一緒に吹ききるとというのが、僕らの間の新しいゲームになった。”

◆風野潮『ビート・キッズ』(講談社, 1998)

中学校の吹奏楽部を舞台に、天性のリズム感を持つ天然ボケ気味の少年と、天才的なドラマの腕前の「鬼の部長兼指揮者兼ドラマメジャー」であり、少し複雑な生い立ちと性格を持った少年のつながりがテンポ良く描かれます。

♪「スター・トレック」のテーマほか【ドリルフェスティバルにて】

“目の中いっぱい広がって、花火の光。全身を包みこんで響く、花火の音。ほんまの目の前には実際のドリルの光景を見ながら、心の中には華やかな花火大会の光景が見えていた。”

◆風野潮『モデラートで行こう♪』(ジャイブ, 2007)

共学化したばかりの元男子高の吹奏楽部に入った女子8人の視点から、友情や恋愛を中心に、野球部の応援、マーチング・フェスティバル、文化祭、コンクールなどのエピソードが綴られます。

♪A列車で行こう/ピリー・ストレイホーン

“人間技とは思えないくらいすごいハイトーンのソロの連発で、もう取拾がつかないほどだ。”

音の渦巻き？ 暴走族？ 小説の中で演奏される吹奏楽作品

二塚 恵里

◆中沢けい『楽隊のうさぎ』（新潮社、2000）

『楽隊のうさぎ』は、中学校の吹奏楽部を舞台にした小説です。元いじめられっこ、マイペースでとぼけたところも見せる、どこか独特な感性を持った少年がひょんなことから吹奏楽部に入り、パーカッションパートとなって2度のコンクールに出場するまでが描かれています。

実際の1996年～1997年の全日本吹奏楽コンクールと同じ課題曲が使われていて、練習や本番での臨場感たっぷりな合奏の描写が魅力のひとつになっています。知っている曲なら思い出しながら、自分で演奏したことがある曲なら体験を重ねながら読むことができるのではないのでしょうか。知らない曲なら想像しながら——読んでみると、本から直接音楽が聴こえてきたらいいのに、なんてもどかしく思ってしまうかもしれません。

そんな夢のような話の代わりに、というわけではありませんが、作中で演奏される曲目と、その曲が収録された当館所蔵のCDをご紹介します。イメージに合う演奏は見つかるでしょうか？

♪交響的詩〜吹奏楽のための/露木正登

“下手をすると、ぐじゃぐじゃと不協和音がわけも解らずに響き続けるという、とんでもない曲だった。で、そういう難しくシリアスな曲が作り出す大きな音の渦巻きの中で指揮者を注視している克久と祥子は、池の金魚よろしく、ぱっくりと大きく口を開けるのである。”

XD34363(1995 東京佼成ウィンドオーケストラ)、XD36272(1996 静岡県 富士宮市立富士宮第四中学校吹奏楽部)、XD36274(1996 京都府 宇治市立南宇治中学校吹奏楽部;島根県 出雲市立第二中学校吹奏楽部)、XD36275(1996 富山県 富山県立高岡商業高等学校吹奏楽部)、XD36276(1996 茨城県 常総学院高等学校吹奏楽部;埼玉県 埼玉県立伊奈学園総合高等学校吹奏楽部;愛知県 愛知工業大学名電高等学校吹奏楽部)、XD36277(1996 埼玉県 埼玉県立与野高等学校吹奏楽部)、XD36278(1996 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校吹奏楽部)、XD36279(1996 京都府 龍谷大学学友会学術文化局吹奏楽部)、XD36283(1996 静岡県 ヤマハ吹奏楽団浜松)、XD41896(1996 静岡県 ヤマハ吹奏楽団浜松)

♪ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲/コダーイ

“いつも、そこで大きな夕陽が現れる。(中略)夕陽の周囲に見慣れた団地の眺めがあり、それが斜めに射す陽の光を受けて、尊いものとして輝きを帯びた。克久は音の中にそういうものを見ていた。”

[吹奏楽版]XD31209(1994 和歌山県 和歌山市立西和中学校吹奏楽部)、XD31214(1994 福岡県 福岡大学応援指導部吹奏楽部)、XD33661(1995 埼玉県 八潮市立八潮中学校吹奏楽部)、XD33663(1995 宮崎県 宮崎市立宮崎中学校吹奏楽部)、XD33667(1995 愛知県 安城学園高等学校吹奏楽部)、XD33673(1995 兵庫県 西宮市吹奏楽部)、XD36273(1996 香川県 綾歌町立綾歌中学校吹奏楽部)、XD36278(1996 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校吹奏楽部)、XD38535(1993 千葉県 千葉市立土気中学校吹奏楽部)、XD38539(1993 神奈川県 神奈川県立野庭高等学校吹奏楽部)、XD39140(1997 徳島県 鳴門市立鳴門市第一中学校吹奏楽部)、XD39141(1997 北海道 札幌市立信濃中学校吹奏楽部)、XD39142(1997 愛知県 蒲郡市立中部中学校吹奏楽部)、XD39143(1997 島根県 島根県立出雲高等学校吹奏楽部)、XD39146(1997 北海道 東海大学第四高等学校吹奏楽部;京都府 洛南高等学校吹奏楽部)、XD39151(1997 兵庫県 宝塚市吹奏楽部)、XD41012(1998 愛媛県 松山市立内宮中学校吹奏楽部;山口県 防府市立桑山中学校吹奏楽部)、XD41018(1998 埼玉県 埼玉県立高等学校吹奏楽部)、XD41638(1998 神奈川県 六角橋吹奏楽部)、XD43121(1999 宮城県 宮城県仙台向山高等学校吹奏楽部)、XD43122(1999 島根県 出雲北陵高等学校吹奏楽部)、XD45418(2000 栃木県 宇都宮市立陽西中学校吹奏楽部)、XD45422(2000 東京都 駒澤大学高等学校吹奏楽部)、XD45424(2000 広島県 鈴峯女子高等学校吹奏楽部;千葉県 柏市立柏高等学校吹奏楽部)、XD52373(2003 広島県 修道高等学校スクールバンド班)
[管弦楽版]XD10414(1939 アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団)、XD11643(1969 ハンガリー国立管弦楽団)、XD12039(1990 シカゴ交響楽団)、XD16070(1990 ハンガリー国立交響楽団)、XD25399(1992 ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団)、XD33470(1994 モントリオール交響楽団)、XD37009(1996 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団)

♪ラ・マルシュ/稲村稯司

“歩く人々の中にはバン屋もいれば、コックもいるし、犬を連れた散歩中の婦人もいるし、おしゃれ小僧を自認する青年もいれば、ひげのおじさんもいるという街の雑多な人々が風に誘われて、歩みを一つにしてしまうという曲だった。”

『音楽療法の現在』

国立音楽大学音楽研究所

音楽療法研究部門編

屋部 操

本学附属の音楽研究所音楽療法研究部門は、本年3月をもって8年間の活動を閉じた。研究活動と研修生への教育のほか、毎年外部からの講師を招いての、さまざまなテーマによる連続講演会は、学内外から高い評価を受けており、活動の三つの柱それぞれが、大きな成果をもたらしている。

研究所活動が一段落することになり、何か記念になる出版物を出そうという流れはごく自然なもので、部門のスタッフだけでなく、これまでの連続講演会講師も快く寄稿して下さることになり、結果として大部な出版物となった。論文は、これまで音楽研究所年報に掲載したものと連続講演会でのテーマをもとに執筆したものが中心で、中には新たにこの出版のために書き起こされたものもある。

出版に当たつてのポイントの一つは、海外から招聘した講師の講演の記録を活字として残すことであった。どの講師も、この企画を快諾してくださり、日本語による音楽療法の出版物としては、一冊の中にそうそうたる顔ぶれが並ぶこととなった。374ページの、ずっしりと重い本である。内容を目次順に一覧してみると、

稲田雅美 沈黙に寄り添う音楽ととも

遠山文吉 子どもの音楽療法―「対象の理解」と「目標の設定」に焦点をあてて

古平孝子 内面性の諸現象と分析的音楽療法―20代女子学生へのアプローチ

中野万里子 音楽療法セッションにおける「場」―統合失調症患者への音楽のアウトリーチ

馬場存 精神科の音楽療法における音楽について

門間陽子 高齢者領域の音楽療法のねらいはどこにあるのか―岐阜県音楽療法士の事例集を通じた考察

岡崎香奈 音楽療法士が「自分と音楽との関係」を見直すこと―感性化トレーニング体験記から

林庸二 "Therapy" の語源から見た音楽療法

阪上正巳 「臨床音楽学」の可能性―音楽療法の基礎学として

谷口高士 音楽療法において心理学的方法論をどのように生かすか―臨床実践の外から見た音楽療法

若尾裕 ドゥルーズ+ガタリの音楽論と音楽療法

真壁宏幹 「シンボル感の生成」としての美的経験―パウハウスにおける「音楽教育」をめぐる

牧野英一郎 「替え歌」から「つくり歌」と「歌掛け」へ―多くの日本人に受け入れられる療法モデルを求めて

屋部操 音楽雑誌にみる音楽療法関連文献

以上が論文。講演記録は以下の5名である。

*ケネス・E・ブルーシア

*バーバラ・ヘッサー

*キヤロライン・ケニー

*ブリュンユルフ・ステイゲ

*井上勢津

一覧すると、音楽療法における現在が浮かび上がってくる思いがする。ここには臨床報告やデータに基づく論文は含まれておらず、学際的な論述も含め、どれもが音楽療法の質を問うものとなっている。執筆を依頼するにあたり特に具体的にお願ひしたことでなかったが、結果としてそうした論文が集まり、編集の末端に関わったものとしてたいへんに満足のいく仕上がりとなった。図書館員として研究所活動に出向させていたいた8年間の総決算がこのようなかたちで残せたことは、とても幸せな体験であった。

●やべ みさお 4月から図書館員だけの生活に戻り、仕事も異動しました。毎日何か新しいことを覚えていくという体験は新鮮で、今度はどんな出会いを持つことができるか楽しみです。

フランス歌曲と日本歌曲の歌姫 荻野綾子と東京高等音楽学院

(現在:国立音楽大学)

荻野綾子(1898.11.2-1944.10.12)

染谷 周子

どこの場所に行っても、なぜこの人に会うのだろうと気になる人がいる。資料の調査をしていて出会った「声楽家・荻野綾子」は私にとって、気になる人である。

最初は10年前、現在の「日本現代音楽協会」の前身である「新興

作曲家連盟」の資料を調査している時、雑誌『音楽評論』で見つけた記事は、若い作曲家を支援する内容なので印象が深かった。

「御知らせ 荻野綾子氏御寄贈の歌謡曲用五線紙が出来上がって本郷曙町十一曙楽荘に保管して御座いますから御立寄御持ち下さい。(庶務部)」「音楽評論」1号(1933.4 p.86)

荻野綾子は1930年(昭和5)連盟の第1回作品発表会に出演している。その後、2度目のフランス留学、1932年(昭和7)に帰国する。連盟には客員として加入し、連盟員の作品を多く演奏会で取り上げる。

最近、国立音楽大学創立80周年事業で『演奏の80年史 東京高等音楽学院・国立音楽学校時代1926-1950』の資料集を作成した際に、再び荻野綾子と再会。「東京高等音楽学院第4回学友会演奏会」(1928年7月7日 国立野外音楽堂 開演:午後6時)に荻野綾子が出演していた。

- ソプラノ独唱 客演荻野綾子女士 伴奏 ショルツ教授
- (イ) 戦地を憶う(デュパルク)
- (ロ) ノクターン(ショルツ)
- (ハ) ダルターニユの歌(ラロ)

(ニ) (ホ) マンドリン、ローマンス(ドビュシー) (ヘ) サラマンクの青年(ルーセル)

学友会演奏会は学院の生徒が主催し、生徒の演奏発表が主である。ドイツ音楽が中心の学院の演奏会でフランス歌曲の客演は珍しい。学院から出演を依頼された頃の荻野綾子は、最初のフランス留学から帰国したばかりであった。この学友会演奏会はこれまでの演奏会と大きく異なっていた。会場はいつもの学院講堂ではなく野外音楽堂、昼ではなく夜の開演であること、またプログラムに呉服店の広告があるなど。荻野綾子の出演がこの異例の演奏会となったのである。ろくかなどと想像してみる。まさか、荻野綾子と東京高等音楽学院と関連があるろうとは、資料調査をしていての嬉しい発見である。



【東京高等音楽学院第四回学友会演奏会】
1928.7.7 プログラム

荻野綾子●おぎのあや

1898年(明治31) 福岡に生まれ、

1919年(大正8) 東京音楽学校本科声楽科を卒業後、深尾須磨子とともに1925年(大正14) から3年間フランスに留学。声楽をクロワザ(Claire Croiza 1882-1940) に師事。1930年(昭和5) から再度深尾須磨子とフランスへ。帰国後、1933年(昭和8) より東京音楽学校に着任したが、同校教師太田太郎との恋愛がもとで翌年7月二人とも辞職。その後太田太郎と結婚するが、この結婚に関して「荻野綾子結婚事件」として『音楽新聞』(昭和9年(1934)・請求記号●MF00195) にセンセーショナルに書かれる。1937年(昭和12) 文部省嘱託の夫とともに渡欧。パリで開催された国際音楽祭に日本人として初入賞した外山道子の作品『やまとのこえ』に出演。帰国後、後人の指導を行ない、フランス歌曲の紹介及び日本歌曲を歌い続ける。1944年(昭和19) 10月45歳で死去。翌年8月夫の太田太郎も死去する。

参考資料

- ◆ 金原礼子・フランス歌曲演奏史 荻野綾子について『音楽の世界』42巻9号(2003.11)・継続連載中(請求記号●964)
- ◆ 『マキエメンタリー』新興作曲家連盟 戦前の作曲家たち1930-1940』国立音楽大学附属図書館 1999(請求記号●63-8-3)
- ◆ 『演奏の80年史 東京高等音楽学院、国立音楽学校時代 1926-1950』国立音楽大学 2006(請求記号●110-790)
- ◆ 『西条八十全集』 荻野綾子の独唱・山田耕作『青い上衣』橋本國彦『大と雲』(請求記号●KD20429)

● そめや かねこ 2年間関わった「国立音楽大学演奏の80年史」の仕事が終了。しかし、いまだに放心状態が続いています。

モーツァルト新全集が電子版で公開

NMA Online:Neue Mozart-Ausgabe:Digitized Version

2006年12月12日、International Stiftung Mozarteumがモーツァルトの新全集をデジタル化し、Webサイトで公開しました。

<http://nma.redhost24-001.com/mambo/index.php>

電子版モーツァルト新全集 (Neue Mozart-Ausgabe : Digital Mozart edition) では、楽譜 (musical_text) と作品解説 (critical_commentaries) が提供されています。どちらもPDFファイルですので、印刷することも可能です。

ケツヘル番号 (KV)、キーワード、目次情報 (カテゴリー)、調性、編者から検索することができますし、検索せずに目次の一覧表示から順次、リンクしていく方法もあります。

オンラインで新全集が無料で提供されたことに、図書館としては驚きを隠せません。

図書館で貸出期限を気にしながら全集楽譜を借りることなく、楽譜そのものが入手できてしまう時代になりました。

図書館ホームページのリンク集：音楽家研究に追加してあります。

今年は第4位：2008年度版

「大学図書館ランキング」(朝日新聞社)

朝日新聞社が発行する『大学ランキング』の2008年度版「大学図書館ランキング」(総合部門：学生1人あたりの数値)で、本学図書館が4位になりました。

今年は朝日新聞にも「大学ランキング」のコラムが連載されたため、図書館部門の取材を受け、2007年5月28日(月曜日)に掲載されました。

2007年度版:5位、2006年度版:6位、2005年度版:7位、と毎年10位以内にランキングされていたのですが、朝日新聞掲載の効果は絶大です。新聞を見ました、と利用者の方々から声を掛けていただくことになりましたし、このように『ぱるらんど』にも掲載することになりました。

このランキングは毎年10月に全国の国公私立大学に行われているアンケート調査に基づき、奉仕対象学生1人あたりの蔵書冊数、受入図書冊数、貸出冊数、図書館費を指数化し、総合評価を行ったものです。

当館は毎年貸出の指数が100の満点となっていますが、今年は、図書館費の指数が例年より高く、資料費の予算削減が行われなかったことが総合評価を上げた要因と思われる。

ドイツ留学も九か月目に入った頃のことである。午後の演習の前に、指導教授が私に質問をされた。「今朝の講義は理解できましたか？」そこで答えた。「はい、今朝は八時に起きました」。先生は心持のけぞった感じであった。私にしては素早く、しかも由緒正しく答えた。つもりであった。しかし、どうも様子がおかしい。そこで聞き返し、事情が飲み込めたのであった。

時折、授業の後に、留学を考えている学生たちから語学の学び方について尋ねられることがある。その度にまず思い浮かぶのは、かつてのこうした珍問答である。

そんな私が留学直前に読んで慰められた本がある。フランス文学者の河盛好蔵さんの『人とつき合う法』（新潮文庫）である。その中にこんな一節があった。「下手な外国語の方がかえって相手を安心させ、相手に親愛の情を呼び覚ますことが多いのである」。事実、私はドイツで大いに親愛の情を呼び覚まし、好意をもつて迎えられたのであった。それにしても、留学にあたって、その国の言語をしつかり学んでおくことは、必須のことではないかと思う。時々、添削してほしいとドイツ語で書いた手紙を持ってきて見せる人たちがいる。その際、基本的な文法の知識が不足しているなど感ずることがたまにある。確かに音楽は言葉の壁を越えて強く心に訴えかけてくる。けれども曲の内容を深く理解し、指導の先生の助言を正確に聞き取るためには、そして様々な暮らしの場面できちんとした対応をするためにも、語学の勉強を怠ってはならない。

しかし、それでもなお思うようにならず、辛い思いをすることもあるだろう。そんな時は、私の「どじな話」を思い起こして、落ち込むことなく朗らかに過ごしてほしい。親愛の情を呼び覚ます、愛らしい人なのだから。

Parlandoのあゆみ

はるらんど

その6

楽譜ランド

前回ご紹介した「ガクフ がくふ 楽譜 いろいろ」に引き続き、当館所蔵の楽譜に焦点を当てたシリーズです。176号（1992年5月発行）に第1回掲載、現在継続中です。

- 1 版画と楽譜と (176)
楽譜として制作されたシルクスクリーン作品。
- 2 コンプリート・ザ・ビートルズ (180)
ビートルズ作品212曲のコーラス、ギターI、II、バス、ドラム用楽譜。
- 3 CDやビデオ付き楽譜 (181)
関連する内容のCDやビデオがある楽譜。2007年9月現在OPACで検索できない資料の情報を含みます。
- 4 ピュイグ=ロジェ先生の楽譜 (182)
故アンリエット・ピュイグ=ロジェ先生（本学元外国人教授）寄贈楽譜など。
- 5 その後のアリス (183)
『はるらんど』143号の記事に続く『不思議の国のアリス』を題材にした作品。
- 6 まだない (184)
本学で行われたヨハネス・フリッチュ氏（作曲）の講演会で取り上げられた作品の、発注中資料（当時）について。
- 7 交響曲を「ピアノ」で弾く (185)
交響曲のピアノ2台、または連弾用楽譜。
- 8 大きすぎる楽譜達 (194)
サイズが大きくて通常の書架に収まらないピアノ用楽譜。
- 9 季節はずれの「ホワイト・クリスマス」(205)
《ホワイト・クリスマス》の作曲家アーヴィング・バーリンの作品集。
- 10 「レンタル楽譜」は図書館では借りられません (207)
レンタル楽譜の入手方法。
- 11 ショスタコーヴィチ「交響曲第7番 作品60 レニングラード」 自筆譜ファクシミリ版を探す方法 (217)
- 12 こどものうたは [童謡][ドウヨウ]で OPAC 件名活用術 (220)
- 13 夢二とセノオ楽譜 (242)
竹久夢二装幀のセノオ音楽出版の楽譜。

* かつこ内は掲載された号数です。

* 現在の資料検索方法とは合致しない内容が一部含まれています。

* 現在は請求記号が変更になった資料が一部含まれています。また、現在は所蔵していない資料についての紹介が一部含まれています。記事を参照して資料を請求する際は、再度OPACで確認してください。

* 記事の内容を読みたい場合は、請求記号P1154と希望の号数を書いて、図書館カウンターで請求してください。

透明感のある音

小川 明奈

演奏学科声楽専修 2年

先日、『高尾山が好き・音楽の調べー自然とともに生きるよろこびを』というテーマで梯剛之さんのピアノリサイタルが行われました。高尾山の高速道路のトンネル工事に反対する市民団体主催のリサイタルです。約千五百人収容のホールは、子供からお年寄りまで幅広い年齢層のお客さんでほぼ満席。演奏が終わる度に「今日来られてよかったね。」「すごくきれいな音だった。」とあちこちから声が聞こえて、会場全体がとても温かい雰囲気でした。ホールに響く梯さんのピアノの音は本当に美しく、客席で熱気や感動を多くのお客さんと一緒に感じることができて、とても心に残るリサイタルでした。

さて、皆さんは専門分野の勉強以外で、クラシック音楽を聴きますか？もしかししたら、自分の勉強している分野以外の音楽のほうがかもしません。毎日学んでいく上でテクニックや表現ばかりが気になって、他の音楽家の演奏も自分の気になる部分を聞こうとして構えてしまうことはありませんか？どんな芸術でも受け取り手が心で感じたり慈しむことで本当の素晴らしさを知ることができるのだと思います。難しく考える必要はありません。ただ落ち着いて、日ごろ考えていることを頭の隅っこに一旦しまうだけです。心に少しの余裕ができると、その隙間に響きや色が入り込んで大きな世界をつくり、その美しさに胸がいつぱいになることでしょう。そしてそのことは演奏者にとっても大切なことだと思えます。梯さんの奏でる美しく澄んだピアノの音は胸の置くまでずっと入り込んで心の琴線に触れます。梯さんの心のうちの美しいと感じる気持ちや音楽を愛する気持ちの結晶が、美しいピアノの音となって豊かな音楽の世界を築いているのでしょうか。

今回紹介するCDは梯さんが17歳のときの初めてのCDです。モーツアルトのソナタは清らかで美しく、ブラームスの6つのピアノ小品からは晩年の胸が詰まるような孤独感や内面的な奥深さが伝わってきます。そして、ショパンのノクターン第8番は夜空に浮かぶ星のように静かで繊細な輝きを放っています。どの曲もそれぞれの魅力に満ち溢れていて、聴く度に大きな感動と驚きがあります。私は梯さんの演奏から、素直な感覚を持ち続けることの大切さを改めて感じました。あなたもまずはこのCDを楽しんでみませんか？



請求記号 ●XD33844
『梯剛之 ピアノ・リサイタル』
(Art Union, ART-3039)

●おがわ あきな もうすぐ秋がやってきます！
『の秋』皆さんの『』はなんですか？

クララ・シューマン
【愛の手紙】
新しい世界への扉

高橋 幸恵

演奏学科声楽専修 4年

国立での生活も早4年目の半ばにさしかかりましたが、これまでの間に多くの人や、多くの新しい音楽の世界に出会い、入学した頃の頃にレクチャーコンサートで目を輝かせた感動がさめることなく、毎日を送ってこられたなあと感じています。そして図書館もまた私に多くの出会いを与えてくれる場所でした。

大学での新しい出会いの一つにドイツの世界があります。それまで遠い国でしかなかったドイツが、歌曲を通じて美しいイメージを伴って身近に感じられるようになりました。中でも昨年はシューマンの歌曲を多く学び、心が暖かく満たされるような美しく繊細な響きのとりこになり、そ

の夢見るような世界にどっぷりとつかっていました。私が学んでいた曲、ミルテの花や二つのリリーダークライスはどれも「歌の年」と呼ばれる年に作られたものであり、シューマンが溢れるように歌曲を作る源となったクララとの愛とはどのようなものであったのだろうかと考えていたときに、図書館でこの本に出会いました。

タイトル「愛の手紙」の通り、この本は二人が取り交わした手紙が中心となつて物語が進んでいきます。天才少女ピアノリストとして育てられたクララの幼少期から、シューマンとの出会い、そして長い試練の時を経て結婚に至るまでが書かれています。十ほど歳が違い初めは兄妹のようだった二人の間に徐々に愛が芽生えていく様子が手紙の中に見ることが出来ました。クララの父ヴィークの激しい結婚反対により過酷な恋でしたが、それで消えるどころか確信を増していく二人の愛に感動せずにはいられませんでした。

二人の愛の行方を知ることの他に、この本の特にお勧めしたいところは、登場人物の華やかさです。メンデルスゾーンやショパ

ン、リストなどドイツロマン派のスター達、音楽史に名を刻む数多くの著名人たちがシューマンとクララを囲む人々として登場します。本を読むまでそれぞれの人物を音楽史の点として捉えていましたが、それらの点同士が線で深く繋がっていたことに驚きました。他の出版社から出ている続編にはブラームスやワーグナーらも登場します。19世紀の様子や当時の演奏家の生活、音楽界の風潮などを知ることが出来るところもお勧めです。堅苦しくなく普通の物語としてもとても読みやすい本なので是非読んでみて下さい。

残りの大学生活であとどれだけ新しい世界への扉を見つけ、中を覗くことが出来るだろうか考えるわくわくします。新しい音楽の世界を探しに、出会いを求め図書館に足を運びましょう！



請求記号●C54-234
クララ・シューマン：
愛の手紙/北宋社/1991

● たかはし さちえ 今ちょうど教育実習前なので、図書館ではもっぱら実習に使えるような本を探しています。面白い本をたくさん見つけました。

コンクール資料の探し方 OPACワンポイント・アドバイス

■コンクールの実況録音CDや映像資料を探したいとき

人名・団体名のボックスに、コンクールの名称を入れて検索してください。

例) フレデリック・ショパン国際コンクール

正確な名称がわからない場合は、わかっている言葉を入力してキーワード検索(F7)してみましょう。日本語で探したい時は、カタカナで入力の方がうまくいく場合があります。

例) ショパン コンクール

例) コンクール ピアノ

例) スイソウガク コンクール

開催年をいっしょに入れてキーワード検索し、特定の回や年次に限定して絞り込むこともできます。

例) コンクール ガッショウ 50

例) スイソウガク コンクール 2000

タイトルのボックスに入力して検索するのではないところがミソ。

■さまざまなコンクールについての本を探したいとき

① 件名のボックスに“コンクール”と入れてキーワード検索してください。

② 当館図書分類(資料)のボックスに“X-836”と入れて検索してください。

①、②それぞれの方法の検索結果は多少異なります。また、2の方法では、音楽祭や音楽賞についての図書もあわせて検索されます。

どちらの探し方でも、図書(和書)にチェックを入れると、日本語の本だけを探すことができます。

音楽配信サービスの追加について

Smithsonian Global Soundが聴けるようになりました。Smithsonian Global Soundは世界のあらゆる地域で演奏された伝統的な音楽を中心に、話し言葉、自然音、人工音を含む様々な音源、約35000トラックをインターネットを通して配信するサービスです。インターネット室の端末から試聴できます。備え付けのヘッドホンでお聴き下さい。同時にアクセスできるのは3ユーザーまでとなります。

夏休み前に借りた資料の返却は

7月以降に借りた資料は、もう返しましたか？忘れずに早めに返却しましょう。返却期限は、添付されている期間票の日付を確認してください。

TAC便の開始は

9月3日(月)から開始します。当館で所蔵していない資料でもTAC加盟館にある場合、TAC便を利用すれば当館資料と同じように利用できます。申込は受付カウンターで。

CDの1泊2日貸出は

9月13日(木)から開始します。返却期限を守りましょう。

学生証・図書館利用証の磁気こすり

入館ゲートが開かない、また、受付をしたときに「磁気が読み取れない」と言われたことはありませんか？レファレンスカウンターで磁気の入力を行いますので、お気軽にお寄りください。

雑誌コーナーが新しくなります

参考図書室内の雑誌コーナーが改修されました。雑誌架が新しくなり、見られる雑誌の数が大幅に増えます。皆様のご利用をお待ちしています。

がんばって教育実習

実習に行かれる方は、受付カウンターで「教育実習」と申し出てください。楽譜や和図書の貸出期間が2週間から4週間になります。CD、映像の教育実習貸出は行っていません。

(テーマ展示 in ブラウジングルーム

7月9日(月)～8月3日(金)

歌舞伎から生まれた言葉

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

「愛想づかし」「市松模様」「黒幕」「正念場」「なあなあ」…普段何気なく使っている言葉の多くが歌舞伎などの古典芸能に由来しているのを知っていますか？こうした言葉から古典芸能を見てみるとまた違った楽しみがあるかも知れません。今回の展示では、こうした日常使われている古典芸能の用語について取り上げてみました。

9月3日(月)～9月28日(金)

国立音楽大学創立80周年記念事業
—新たな創造を求めて—の3年間

企画●杉岡わか子(国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

国立音楽大学は2006年に創立80周年を迎え、それに向けて2004年から3年間にわたり創立80周年記念事業が展開されました。「新たな創造を求めて」をキャッチフレーズとして実施された事業について、演奏会のポスター・ちらし・プログラム、またシンポジウムや調査研究などで作成された刊行物を展示します。

(ガイダンス

6月15日(金)

田中健次先生クラスガイダンス(3年・音楽教育)

6月18日(月)

江崎公子先生クラスガイダンス(3年・音楽教育)

6月27日(水)

阪上正巳先生ゼミガイダンス(4年・音楽文化デザイン)

6月28日(木)

今井顕先生クラスガイダンス(院1年・ピアノ)

7月 5日(木)

今井顕先生クラスガイダンス(院1年・ピアノ)

7月24日(火)

酒井美恵子先生ゼミガイダンス(4年・音楽教育)

源田俊一郎先生ゼミガイダンス(4年・音楽教育)

(ゲスト

5月19日 本学附属高等学校の2・3年生と父母の皆様

5月29日 群馬県立西邑楽高等学校の2年生32名

6月11日 浜松学芸高等学校の3年生3名

7月12日 東京都立大泉高等学校の2年生1名

東京都立福生高等学校の2年生5名

7月13日 東京都立小山台高等学校の2年生6名

東京都立府中西高等学校の2年生4名、3年生2名

7月14日 東京都立八王子高等学校の生徒さん13名と保護者の皆様

Library Calendar

9

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
	●	●	●	●	●	
9	◆	◆	◆			
16						
23/30	24	25	26	27	28	29

10

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

- ◆ 閉館
- ◆ 月～金 8:50～19:00 (書庫内資料の受付は18:00まで) ● A V資料室 8:50～18:40 (受付は18:00まで)
- ◆ 土 8:50～16:40 (書庫内資料の受付は12:00まで) ● A V資料室 8:50～12:00 (受付は11:40まで)
- ◆ 土 8:50～18:00 (書庫内資料の受付は18:00まで) ● A V資料室 8:50～18:00 (受付は17:40まで)
- ◆ 土 8:50～16:40 (書庫内資料の受付は16:30まで) ● A V資料室 8:50～16:30 (受付は16:10まで)

■ Parlando・演劇の文化・256号・September 3, 2007・演劇の文化は「語りかける文化」を意味の連続記号です ■ 発行・国立音楽大学附属図書館 ■ 編集担当・石川泰子・森岡倫子 ■